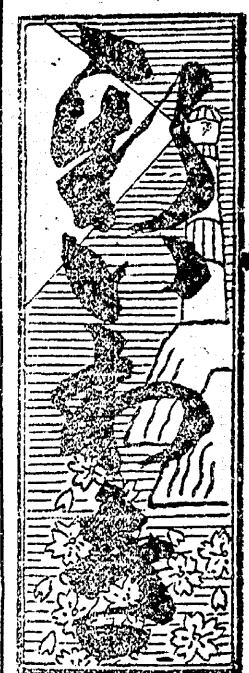


日二十一年十月一日



石城町村長支會から 鉢川橋架換の陳情

明年度豫算に計上する様

一千五百人の交通に大支障

石城郡南の鉢川橋は近年腐朽甚だしく數年來宿題となつてゐる架け換えは總鐵筋コンクリートを以て約三十萬圓と云はれる巨費に貧弱な縣の財政から荏冉今日に及んでゐる郡町村長會では右の架け換えを出した

國道六號線鉢川橋は腐朽甚だしく交通に危険を感じられるが架換の儀は多年の懸案に至るも計り難く候、事に至るも計り難く候、由來鉢川橋は鉢川を横断する唯一の交通路にして是れを斷たんか國道六號線の交通は直に遮断せられ一日五

千を算する交通に一大支障を來たすべく地方民の不便想像に餘有り候、況んや鉢川人網工場通行三百の自動車は全く其の通路を断たる殊に當地方は霖雨灾害による稻作の被害著しく昨年に於てをや

被災の實状にて收穫後に適當の職を與ふるに非されば深刻なる窮乏に陥り救ふべからざる状態に有之候、されば凶作對策を講ね是非

昭和十一年度豫算に計上せられ本橋架換工事施行相成候特別の御諮詢相仰度

共に左記の如き減産で石川相高の十一萬九千五十六俵より三千百四十三俵より實に三千百四十五俵を減少してゐる尙ほ検査區別の俵數では双

が前年同期に比すれば各郡

一千八百七十九俵、赤井一万一千八百七十九俵、植田一一六

一六〇、津島一一五四一、廣

野一〇八七二その他は何れも一万俵以下である

石城地方を吹き荒した昨十一

日夜來の強風は始んど夙なし

で今十二日を吹き續け平町では屋根看板を取られたもの所

により瓦の飛んだもの又は板塀の倒壊等小被害を見せざる者

下刈上げ盛りの農村では稻の程度は正午頃まで是れ位の

ところであるが右に就て小名演測候所の観測によれば

大体に於て強風の程度十米

前後(十二日正午頃)の風速である、千島列島紗那南沖合の低氣壓七三・五ミリが東

に運動し西班牙にある七

七・二ミリの高氣壓かゝ押し

て来る風が強いので此の模様は昨十一日午後二時から

更に昨十一日委員の協議を重ね隣地合併交渉に左記の分擔

針と決し右計画に進すべく

他案的に多分の必要性を有つ同間として此の際隣村合併

を以てしても市制施行を好方し現在の情勢に於て最も可能

平町市制施行調査委員の準備

協議は去る一日他都市の視察

状況を持寄り協議の結果都市

委員を決して來る十八日は飯

野、神谷、十九日は平尾、内

郷、二十日は好間に意向を質

問して済次強くなり十二月七が

て漸次強くなり十二月七が

日付日未定以上

市制施行の平町 隣地合併に交渉 分擔委員で十八日から

飯野、神谷、平尾、内郷、好間に

市制施行の平町 隣地合併に交渉 分擔委員で十八日から

(二) 昭和十一年十月三十日 (水曜日) 新聞

葱栽培法

(8) 石城分場矢ヶ崎生
又遅播に過ぎたるもの、苗
の發育良好ならざる小苗は越
冬中前記の如く缺株を生ずる
こと多きを以て一週間乃至十
日間位の早播となしその率を
少なくし且つ遅植による收量
減を幾分でも回復せしめる必
要がある。

次に右城分場に於ける播種
到定期試験の成績期を上げ
て参考に供する事とする。

昭和五年 废昭和七年度
同八年度(以上三ヶ年平均)
試験區別八月廿九日播種
十月二十五日 定植反常收
量個數一六八三三 重量一
二三四貢八 劑玉率一三%
九 抽苔率九%三
右の順を表にせば、
播種區 個 重 劑玉 抽苔

平田四丁目前
平町南町
電三〇七
會長 清野キヨ
平看護婦會
御手不足の御家庭輕
い御病人の付添姫嬢
産婦の御家庭
高久病院
院長 醫學士 高久忠
平町田町 電話五二三番
内科 小兒科
外科 花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科
山野邊藥局
平町五丁目角
計量器指定販賣
なる
正確
体温計
(種各)

耳鼻咽喉科専門
入院應需 鈴木正男
医學生 鈴木正男
平町田町(電話五八番)藤田女學校前
貨物自動車の御用命に應じます

天然加里肥 最も適應する作物！
里芋 しゃうが類
馬鈴薯
蔬菜
【茄果類ではトマト・茄子の如き比較的の病害に弱い
作物に施用すれば抵抗力を與へ落葉を防ぎます】
天然加里肥は酸性でないから
【如何に施用しても土壤を悪化する虞は絶対にあり
ません】

し	物	X	器病科
づ	療	花柳病科	醫學士
か	科	病室完備	醫學博士
に	醫學博士	(毎日午前八時より午後十時迄診療)	前澤謙
	石	： 入院隨意	正郎
	山	：	雄平
	木	●	孝
	本		寶
	鈴		
	吉		
	石		
	山		
	澤		

(磐城共濟病院) 福島縣平町電六四一
院長 醫學博士 岩佐山藤尙輔謙澤廣輔
部長 手醫學士 黒澤山藤尙輔謙澤廣輔
部長 電話六四一
科長
小兒科
產婦人科
外科耳鼻咽喉科
醫學士
部長
士大町久藏

○ 一般印刷物も御引受け致します
新 い わ き 新 聞 社